市民のみなさまへ

赤穂市小・中学校

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果

平成29年４月，全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に，国語，算数・数学の主として「知識」と「活用」及び生活習慣や学習環境等に関する「学力・学習状況調査」が実施されました。

この調査は，平成19年度から文部科学省により実施されており，調査結果の分析により，さまざまな施策や学校教育活動の成果と課題を明らかにし，その改善を図っていくための資料として利用されています。

なお，この調査により測定できるのは，学力または学校教育活動の一部分であり，詳しい調査結果の公表をすることで，児童生徒や学校の序列化につながり，順位のみに関心が集中したり，過度の競争につながったりするなど，本来の調査目的から外れることになります。

そこで，赤穂市では，市全体の詳しい結果の公表は行わず，各学校における関係会議や学校だより等によってのみ概要をお知らせしてきましたが，平成26年度より，情報公開の観点から，赤穂市全体の結果概要と改善の方策及び学校での具体的改善方法や対策について広く市民に公開し，保護者や家庭との協力による効果的な学力向上対策を推進することといたしました。

学力の向上については，学校教育の充実のもと，学校と家庭がそれぞれの役割分担をしっかりと担い，連携を行っていくことで，子どもたちの生活習慣の向上及び学習習慣の定着につながるものと考えております。

今後とも，学力向上についてさまざまな施策の推進にみなさまのご協力をお願いいたします。

公表の内容

Ⅰ：調査に関する概要

Ⅱ：調査結果の概要（教科に関する状況や児童生徒質問紙，学校質問紙からの状況）

Ⅲ：赤穂市教育委員会の施策

Ⅳ：各区分における県との比較，課題，今後の指導方法・対策

赤穂市教育委員会

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について

赤穂市教育委員会

Ⅰ 調査の概要

1 調査目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
○教育指導に関する継続的な検証・改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○小学校第6学年の児童（383名）
○中学校第3学年の生徒（442名）

3 調査内容

（1）教科に関する調査（国語，算数・数学）
A《主として「知識」に関する問題》
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・日常生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
B《主として「活用」に関する問題》
・知識・技能等を日常生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
・様々な課題解決のために構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
（2）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
《児童生徒に対する調査》
・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査
《学校に対する調査》
・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施日

平成29年4月18日（火）

5 公表に関する赤穂市の方針

（1）学力・学習状況調査結果を赤穂市の学校教育が抱える課題を解決するために活用し，その結果から見えてくる課題解決の糸口を「赤穂市教育振興計画」に基づいて，具体的施策に反映させる。
（2）結果を公表することにより，学校づくりの土台となる「確かな学力」の定着状況とその対策を発信し，保護者や市民の理解と協働に基づく信頼される学校づくりの基盤とする。
（3）本調査により測定できるのは，学力または学校教育活動の一部分であることを踏まえ，序列化や過度な競争が生じないよう十分配慮する。

6 公表に関する留意事項

○平均正答数（率）や個別の学校名は公表しない。
○教科の領域や評価の観点等の区分における結果を概算値にて示し，今後の対策や改善等について，赤穂市教育委員会ホーム ページ等に公表する。

Ⅱ　結果の概要

1　教科に関する状況（概要）

○小学校は，総ての領域において県・全国と「同程度」である。
○中学校は，総ての領域において県・全国と「同程度」である。
＊「同程度」は，平均との差が，±5％以内を指す（文部科学省より）

2　児童生徒に関する生活習慣や学習環境等に関する状況（児童生徒質問紙調査より）

○全国・県平均より「割合が高かった」（肯定的な評価が著しく高かった）項目

【小学校】
・先生は，授業やテストで間違えたところや理解していないところについて，分かるまで教えてくれますか
・今住んでいる地域の行事に参加していますか
・5年生までに受けた授業の中で，目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

【中学校】
・学校で好きな授業がありますか
・学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか
・地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか

○「学力向上につながる（平均正答率が高い）児童生徒の生活習慣・学習環境の特徴」
・毎日同じくらいの時刻に「起きている」，「ねている」
・朝食は，「毎日食べる」
・家で，学校の宿題等の勉強をしている時間は「2時間以上3時間より少ない」
・家で，学校の予習・復習を「している」
・テレビ・ビデオ・DVDを見る時間は，「1時間以上2時間より少ない」
・テレビゲームをする時間は，「30分より少ない」(小学校)，「1時間より少ない」(中学校)
・家庭で学校のことについて，「会話がある」
・将来の夢や目標を「もっている」
・人の役に立つ人間になりたいと「思っている」

3　学校の取組の状況（学校質問紙調査より）

○「学力向上につながる学校の取組の特徴」

〔組織的な対応をしている〕
・学校の教育目標やその達成に向けた方策について，全教職員の間で共有し，子どもたちのために組織的な取組を推進している。

〔校内研修を行っている〕

Ⅲ　教育委員会の施策

1　学力向上推進事業の実施

（1）ねらい　平成29年度全国学力・学習状況調査の各校の分析をもとに，本市の児童生徒の学力向上に向けた取組を検討し，推進していく。

（2）取組
○調査結果をふまえた，各校において，課題のある領域の改善を図る取組
○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る取組
（小学校「赤穂ドリル」(国語・算数）の充実，学習タイムの内容の充実）
○新教育課程移行の時期を捉え，「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点をふまえた授業改善
（研修会等の実施）
○学校と家庭と連携した基本的な学習習慣や生活習慣の定着を図る取組
（各校での「学びの手引き」作成・情報交換）

2　中学校区連携教育の推進

中学校区を中心とした学力向上をめざす効果的な連携教育を実践する。

〈内容〉
○小・中学校間の「教職員短期交流」と「相互授業交流」の充実
○連携教育部会を中心とした効果的な小中連携の在り方の検討
（小・中学校の系統性を見据えた指導計画の検討）

Ⅳ 各区分における県との比較，課題，今後の指導方法・対策

【小学校（６年生）】

教科	種類	区分（学習指導要領の領域等）	平均正答率(%)の県との比較	課題のある内容	今後の指導方法・対策の例
国語	A知識	話すこと・聞くこと	同程度	・古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	・基礎・基本の確実な定着を図るために，１単位時間の授業とともに「学習タイム」を充実させる。 ・授業において，グループ活動の機会を設けて自分の意見を伝える活動を取り入れる。話し合いにより深めたり，一つに意見をまとめたりする活動をより充実させる。また，児童一人一人がより深く考察できるよう教師が発問を工夫する。教職員研修を充実させ，授業力向上に努めていく。
		書くこと	同程度		
		読むこと	同程度		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度		
	B活用	話すこと・聞くこと	同程度	・目的や意図に応じ，必要な内容を整理して書く ・自分の考えを広げたり，深めたりするための発言の意図を捉える	・国語科や社会科等において，字数制限やキーワードを使った作文に取り組む。 ・説明文の学習において，筆者の要旨を理解したり，作文してまとめたりする学習活動を充実させる。
		書くこと	同程度		
		読むこと	同程度		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
算数	A知識	数と計算	同程度	・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる ・資料から，二次元表の合計欄に入る数を求めることができる	・基礎・基本の確実な定着を図れるよう，「学習タイム」の有効活用や家庭学習の内容を充実させ，継続した取組を行う。 ・グループ学習をはじめとした，児童間の学び合いの場面を設定し，公式や計算技能のみならず，深い学びができるような学習形態を取り入れていく。 ・ＩＣＴを活用し，図形を視覚的に捉えさせるようにする。
		量と測定	同程度		
		図形	同程度		
		数量関係	同程度		
	B活用	数と計算	同程度	・料金の差を求めるために，示された資料から必要な数値を選び，その求め方と答えを記述できる ・直線の数とその間の数の関係に着目して，示された方法を問題場面に適用することができる ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に，比較量を判断し，その判断の理由を記述できる	・生活に結びついた応用問題を解いたり，教科書の基礎問題に取り組んだあと，日常生活における数学的事象への視野を広げられるようにする。 ・児童は，「割合」や「速さ」など，目に見えにくく実感を伴わない事象を扱う際には，児童の身近に起こりうる事象を扱うなど，具体的な課題解決場面を設定して学習を進めていく。
		量と測定	同程度		
		図形	同程度		
		数量関係	同程度		

【中学校（３年生）】

教科	種類	区分（学習指導要領の領域等）	平均正答率(%)の県との比較	課題のある内容	今後の指導方法・対策の例
国語	A知識	話すこと・聞くこと	同程度	・事象や行為などを表す多様な語句について理解する	・「話すこと・聞くこと」に関して，生徒同士の対話を主とした活動を授業の中に積極的に取り入れ，その中で自分の意見を相手に話す，相手の意見を聞き取る能力を高める実践の場とする。 ・「読むこと」に関しては，ワークシート等を用いてより詳細に読みを深める手立てとするとともに，そのワークシートを基にした週末課題を作成するなど深めた読みの定着まで図る。また，「読書週間」を設けるなどの，教科書以外でも多様な文学作品に生徒が出会えるような場を提供していく。
		書くこと	同程度		
		読むこと	同程度		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度		
	B活用	話すこと・聞くこと	同程度	・相手の反応を踏まえながら，事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	・本や新聞，インターネット等から集めた情報を活用し，出典を明らかにしながら，新聞作り・意見文・紹介文・案内文等を書くなどの言語活動をさまざまな場面で設定する。
		書くこと	同程度		
		読むこと	同程度		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度		
数学	A知識	数と式	同程度	・扇形の弧の長さを求めることができる ・関数の意味を理解している ・範囲の意味を理解している ・与えられた度数分布表について，ある階級の相対度数を求めることができる	・基礎学力の定着をふまえた課題を出すようにする。（週末課題・確認テスト等） ・少人数授業のあり方を考えるとともに，生徒同士の教え合いができるような授業を仕組んでいく。 ・朝の学習プリントなどを活用し，基本的な計算力の向上を図るとともに，適切な課題を与え，家庭学習を徹底させる。
		図形	同程度		
		関数	同程度		
		資料の活用	同程度		
	B活用	数と式	同程度	・２つの図形の関係を回転移動に着目して捉え，数学的な表現を用いて説明することができる ・事象と式の対応を的確に捉え，事柄が成り立つ理由を説明することができる ・事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することができる	・教材や教具を工夫し，生徒が自ら主体的に数学的活動に参加しやすいようにする。また，発問を工夫し，生徒に考えさせる機会を増やすことで，自ら解決する力を養う。 ・数学的活動を行う機会を増やすことで，事象や事柄の理解を深化させ，人に自らの言葉で説明できる表現力を養う。
		図形	同程度		
		関数	同程度		
		資料の活用	同程度		

※「同程度」は，「平均正答率(%)県との比較」が，±５%以内を指す。

市民のみなさまへ

赤穂市小・中学校

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果

昨年４月、全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に、国語・算数（数学）の主として基礎知識と活用及び生活習慣や学習環境等に関する「学力・学習状況調査」が実施されました。

この調査は、平成19年度から文部科学省により実施されており、調査結果の分析により、さまざまな施策や学校教育活動の成果と課題を明らかにし、その改善を図っていくための資料として利用されています。（平成23年度は、東日本大震災のため中止されました。）

なお、この調査により測定できるのは、学力または学校教育活動の一部分であり、詳しい調査結果の公表をすることで、児童生徒や学校の序列化につながり、順位のみに関心が集中したり、過度の競争につながったりするなど、本来の調査目的から外れることになります。

そこで、赤穂市では、市全体の詳しい結果の公表は行わず、各学校における関係会議や学校だより等によってのみ概要をお知らせしてきましたが、今年度より、情報公開の観点から、赤穂市全体の結果概要と改善の方策及び学校での具体的改善方法や対策について広く市民に公開し、保護者や家庭との協力による効果的な学力向上対策を推進することといたしました。

学力の向上については、学校教育の充実のもと、学校と家庭がそれぞれの役割分担をしかっりと担い、連携を行っていくことで、子どもたちの生活習慣の向上及び学習習慣の定着につながるものと考えております。

今後とも、学力向上についてさまざまな施策の推進にみなさまのご協力をお願いいたします。

公表の内容

Ⅰ：調査に関する概要

Ⅱ：調査結果の概要（教科に関する状況や児童生徒質問紙、学校質問紙からの状況）

Ⅲ：赤穂市教育委員会の施策

Ⅳ：各区分における県との比較、課題、今後の指導方法・対策

赤穂市教育委員会

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について

平成27年1月27日
赤穂市教育委員会

Ⅰ 調査の概要

1 調査目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
○以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証・改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○小学校第6学年の全児童
○中学校第3学年の全生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学)
A《主として「知識」に関する問題》
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・日常生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
B《主として「活用」に関する問題》
・知識・技能等を日常生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
・様々な課題解決のために構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
《児童生徒に対する調査》
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
《学校に対する調査》
・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施日

平成26年4月22日(火)

5 公表に関する赤穂市の方針

(1)学力・学習状況調査結果を赤穂市の学校教育が抱える課題を解決するために活用し、その結果から見えてくる課題解決の糸口を「赤穂市教育プラン」及び第三者委員会「提言」の実現に向けた具体的施策に反映させる。
(2)結果を公表することにより、学校づくりの土台となる確かな学力の定着状況とその対策を発信し、保護者や市民の理解と協働に基づく信頼される学校づくりの基盤とする。
(3)本調査により測定できるのは、学力または学校教育活動の一部分であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないよう十分配慮する。

6 公表に関する留意事項

○平均正答数(率)や個別の学校名は公表しない。

Ⅱ 結果の概要

1 教科に関する状況（概要）

○小学校は、総ての領域において県・全国と同程度である。
○中学校は、半分以上の領域において県・全国よりやや下回る傾向が見られる。

2 児童生徒に関する生活習慣や学習環境等に関する状況（児童生徒質問紙調査より）

○「学力向上につながる児童生徒の生活習慣・学習環境の特徴は」

- ・朝　食 → （小・中）毎日食べる
- ・テレビ、ビデオ、DVDを見る時間 → （小）2時間より少ない （中）全く見ない
- ・テレビゲームをする時間 → （小）1時間以上2時間より少ない （中）全くしない
- ・携帯電話やスマホでメールをする時間 → （小）持っていない （中）30分以上1時間以内
- ・家庭で学校のことについての会話 → （小・中）会話がある
- ・地域や社会の問題や出来事 → （小・中）関心がある
- ・テレビやインターネットのニュース → （小・中）よく見る
- ・人の役に立つ人間になりたいと思うか → （小・中）そう思う

※（小）小学校児童の場合
※（中）中学校生徒の場合

3 学校の取組の状況（学校質問紙調査より）

○「学力向上につながる学校取組の特徴は」

〔組織的な対応〕
・学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、子どもたちのために組織的な取組を推進する。

〔校内研修〕
・学校でテーマを決め講師を招聘するなど、子どもたちに学力をつけるための授業力を高める取組を行う。

〔家庭・地域との連携〕
・学校支援ボランティアなど、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加し、学校が家庭や地域と連携した取組を行う。

Ⅲ 教育委員会の施策

1 学力向上等を検討する会議の設置

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析を通してその課題を明らかにし、課題の解決を図るための方策を検討する。

〈構成〉学識経験者及び教職員、保護者等
〈内容〉○平成26年度全国学力・学習状況調査結果の分析と課題解決を図るための方策の検討及び啓発資料の作成
○教職員研修会の開催

2 中学校区連携教育の推進

中学校区を中心とした学力向上をめざす効果的な連携教育を実践する。

〈内容〉○小・中学校間の教職員短期交流と相互授業交流の充実
○連携教育部会を中心とした効果的な連携の在り方の検討
○家庭と連携した学習習慣の定着
○学校から家庭への学習情報の提供
○小・中学校間の学習カリキュラムの相互乗り入れ

Ⅳ 各区分における県との比較、課題、今後の指導方法・対策

平成26年度全国学力・学習状況調査結果の概要（課題・指導方法・対策）

【小学校（６年生）】

教科	種類	区分（学習指導要領の領域等）	平均正答率(%)の県との比較	課題のある内容	今後の指導方法・対策
国語	A知識	話すこと・聞くこと	同程度	・新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える。 ・故事成語の意味と使い方を理解する。	・多様な表現方法に親しむために新聞記事を取り入れ、要旨を把握する教材として活用したりスピーチに用いたりするなど指導の工夫を行う。 ・市立図書館や図書室を有効に活用し日常から故事成語に親しむ環境づくりを行う。 ・故事成語を使ったスピーチ、日記、短文作り、作文等、意図的に学びの機会を設ける。
		書くこと	同程度		
		読むこと	同程度		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度		
	B活用	話すこと・聞くこと	同程度	・わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関連付けながらまとめて書く。 ・詩の解釈における着眼点の違いを捉える。	・新聞作り、意見文、紹介文等を書くなどの言語活動を意識的に学習の中に取り入れ、目的や意図に応じた書く力を育成する。 ・複数の詩を比べて読み、表現の工夫や詩のとらえ方を観点にして、それぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈する事ができるようにする。 ・学年に応じた長さや内容の詩を暗唱し、群読したり朗読会をしたりして詩の良さに親しむ。
		書くこと	同程度		
		読むこと	同程度		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度		
算数	A知識	数と計算	同程度	・分数の相等及び大小について理解する。 ・立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解する。	・モジュールの時間等を使って、計算の決まりを復習し、慣れることで手際よく計算できる力を身につける。 ・スモールステップの指導・評価を繰り返し、子どもの「できた」という達成感を大切にし、自尊感情の高まりにつなげる。 ・授業内容を視覚的に把握できるように、電子黒板、パソコン、教材提示装置を積極的に活用する。
		量と測定	同程度		
		図形	同程度		
		数量関係	同程度		
	B活用	数と計算	同程度	・１０人分の量を基に４０人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる。 ・示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる。	・本時の学習で学ぶことについての「学習の見通し」を明らかにする。 ・図形を認識する力をつけるために、低学年から視覚や触覚を通じて「三角形や四角形」に十分親しませる。具体的には、手を使って、形を「探す」活動や「切る」などの活動を通して三角形や四角形に対する認識を豊かにしておく。 ・単元の発展応用的な問題に取り組ませることで、資料から根拠を見つけて問題解決の方法を考え、筋道を立てて説明できるようにする。
		量と測定	同程度		
		図形	同程度		
		数量関係	同程度		

【中学校（３年生）】

教科	種類	区分（学習指導要領の領域等）	平均正答率(%)の県との比較	課題のある内容	今後の指導方法・対策
国語	A知識	話すこと・聞くこと	同程度	・心情を読み取ったり、語句の意味を理解したりする。 ・文脈の中における語句の意味を理解する。	・定期的な読書紹介等を通じて学級文庫や図書室の充実を図り、良書に親しむ機会を意図的に設ける。 ・新聞記事を教材に取り入れたり、詩歌、俳句等に触れる機会を意識的に設けたりしながら、指導の工夫を図る。 ・文章中の語句の意味を的確に把握するために、辞書をひくことを習慣化させるとともに、主語・述語に留意した短文作りの機会を設ける。
		書くこと	同程度		
		読むこと	やや下回る		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度		
	B活用	話すこと・聞くこと	－	・理由を明確にして、自分の考えを書く。 ・複数の資料から必要な情報を読み取る。 ・表現の技法を理解する。	・言語活動を学校教育の多様な場面で設定し、目的に応じて効果的に書くことができるようにする。 ・インターネット等を用いた調べ学習を取り入れ、入手した情報を新聞作りや学習のまとめに生かす。 ・様々な表現方法（比喩法、反復法、倒置法など）の効果について意見を述べ合う活動を取り入れる。
		書くこと	やや下回る		
		読むこと	やや下回る		
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや下回る		
数学	A知識	数と式	同程度	・平面図形及び空間図形について理解する。 ・関数（比例・反比例）の意味を理解する。 ・度数分布表やヒストグラム、確率の意味を理解する。	・図形の理解を深めるために、コンピュータや立体模型を活用するなど、視覚的、体験的な学習を工夫する。 ・関数の理解を深めるために、ブラックボックスや電子黒板の活用を通した学習方法を考える。 ・度数分布、ヒストグラム、確率の理解を深めるために、必要に応じて電卓やコンピュータを用い、手際よく資料を整理する能力を育む。また、ゲームや体験などを取り入れた学習の工夫を行う。
		図形	やや下回る		
		関数	やや下回る		
		資料の活用	やや下回る		
	B活用	数と式	やや下回る	・予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明する。 ・事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明する。 ・不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる。	・教材や教具を工夫し、生徒自らが意欲的に数学的活動に参加しやすいようにする。 ・発問を工夫することにより、個人・ペア・グループなど形態を工夫して、生徒自身が考える時間を確保する。 ・数学的活動を行う機会を増やし、事象や事柄の理解を深化させ、他人に対して自らの言葉で説明できる機会を確保する。
		図形	同程度		
		関数	やや下回る		
		資料の活用	やや下回る		

※平均正答率とは、各区分の平均正答数を百分率で表示したもの。（上記の表では、赤穂市と兵庫県の平均正答率を比較している）